



小糸
玉の文

志津保久草紙序

紙を書けり。以て。此流。物。澤。知。蓮。源。在。印。年。人。



石橋老



身もたれ。何事ともおぼろげなる。及古くも捨
けしはせむ。志は後入世の事。おぼろげなる。此書
の筆をいふ。無事。おぼろげなる。煮あつて。おぼろ
げなる。西へ。おぼろげなる。煮あつて。おぼろ
大鶴の蓋を。おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろ
おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろ
おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろ
おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろ
おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろげなる。おぼろ

ころ橋月也

妄言反古志洋保身及帝目錄

上卷

餅酒 料理茶談 序 辨
蛇器 長門周樓 跋 辭
櫻紅 報 條
清列 妄言 養 叙
藝田 宮口屋 跋 贊
同家 跋 來 贊
古今 笑話 集 跋
菓子 店 報 條

鶏 折 序 贊
禪 助 贊
福 三 弦 自 画 贊
伎 談 語 跋
賦 客 唱 穿 跋
同 所 駁 亭 跋 贊
草 画 贊
長 短 跋
富士山 贊

箕 卑 報 條

三十日 一 枝

似 口 額 前 書

大津 画 鬼 念 佛 画 帖

大橋 連 林 俳 卷 序

野圃 王 子 序

下卷

三十六 花 森 序

浅黄 幕 前 書

俳風 書 揚 技 序

山吹 餅 報 條

駱駝 具 誌 序

儻 意 鈔 序

夜 光 珠 跋

遊 方 雜 俎 叙

笑 語 東 氣 贊 叙

額 新 戲 挽 口 文

皆 嘗 大 入 技 名 發 語

癩 疹 贊 散 退 記

藝 子 西 藏 序

搜 摺 帶 語

祝 籬 示 辭

滑 藝 旅 雀 叙

似口各評卷附言
 享射文庫序
 唱家年始狀報條
 詠曲似口卷叙
 奇淨瑠璃笑話二章
 賀七十歲戲文
 御蔭參記
 誅定命壽考
 以上

祝六十賀詩
 菴細工関科贊
 滑稽東都節叙
 戲場藏悔
 煙管傳
 似口言葉影跋
 宇每土産序
 狂俳草句集叙

婦姑志津保具双舟上

石橋奔真醉戲

○餅酒の弁

世に下る上るの論多しといふも。宣其勝劣を改せんや
 務も生るし酒も亦亦人々。粟盛を領ありて餅の
 凡俗を以て餅を餅とせん。酒の香を以て餅の
 西行も真酒を食ふを以て餅を餅とせん。餅の
 中々餅を以て餅とせん。唐生八粟餅を以て餅とせん。
 蘇の餅を以て餅とせん。粟餅を以て餅とせん。餅の
 好く東方餅の餅を以て餅とせん。粟餅を以て餅とせん。
 山鏡歌の餅を以て餅とせん。粟餅を以て餅とせん。
 仁田の餅を以て餅とせん。粟餅を以て餅とせん。
 田舎の餅を以て餅とせん。粟餅を以て餅とせん。



保命酒を多飲ひての心と他人が飲酒を恨み
茶人は除光候と云ふも春の夜乃送く
黍飯は極ち行り。芳味しととトナ。月待入
夜入背敷よ。湯かぶり。毒系か。下は浮揚理と
つくる。つんじ。或は茶する。有る。花とて
歌妓より。編笠候。は。初南入。折つけ。と。る。摩
つ。あ。り。定。ら。う。が。あ。と。と。衣。ね。じ。呪。う。し。と
は。石。知。附。よ。中。石。高。く。は。母。が。酒。と。狂。玄。舎。よ。
評。判。と。し。氷。候。あり。石。を。存。一。衣。酒。入。流。と。称
一。二。文。字。の。ま。は。五。文。後。り。の。り。ま。ま。白。一。斗
詩。百。通。あ。ん。も。わ。一。重。は。古。惣。う。く。の。威。む。り
あ。の。後。房。の。り。と。後。子。ん。祝。に。う。徳。利

乃事ん。う。吹。息。う。悟。氣。の。燒。候。も。う。と。う。人。と。う。く
下。を。う。り。く。は。時。と。示。し。し。鼻。乃。下。月。名。乃。下。
か。の。う。り。葉。子。窓。の。櫺。子。の。ま。る。雪。井。よ。は。流。む
空。乃。月。者。よ。は。死。海。を。死。鳥。候。り。う。づ。ね。と
は。中。酒。の。飲。候。一。候。も。喰。小。一。食。傷。の
書。し。心。事。あ。う。れ。吐。息。の。愁。の。身。と。う。ね
○新發 假名ノ在詩
人。入。敷。よ。は。う。る。お。り。り。の。あ。の。う。り。う。ち。の。ひ。よ。こ。云。月。よ
舟。と。樹。ん。く。を。く。花。母。又。と。あ。う。う。く。と。と。敷。ひ
と。生。は。渡。敷。歩。り。以。せ。く。初。起。す。地。程。の。は。冬。美
鳩。よ。云。夜。の。礼。の。り。と。も。う。そ。う。と。ん。孝。け。は。あ。い。お。る
○料理茶位序

天賦の才なり。いふも、山陰道産大所也。右隣テ
も、尾身齋らす處。夫通人、となく、おれを
たゞ、い地は、ほきん者、歎されく、おれの和
つら、謀、く、烟花の科、小、つら、和、を、虚、実、ハ
痛、く、ちん、や、別、定、よ、小、再、あり、を、く、実、ん
ふ、を、る、よ、も、年、多、多、の、出、す、目、も、見、よ、
這、節、あり、種、ま、つ、ま、と、ぬ、ひ、妙、作、り、を、
虚、と、実、の、一、つ、折、世、良、の、通、る、い、ま、を、辨、し、つ、く
實、と、偽、り、味、ひ、る、事、元

○蛇の歌評

あ、一首の蛇、つら、彼、具、に、ち、や、一、日、汝、海、深
の、重、宝、少、く、故、あ、も、宝、量、も、り、く、て、朝、夕、命、り、
結、え、よ、隠、ひ、ひ、沙、清、茶、清、の、名、と、た、り、ま、ま、そ、り

不他、と、い、ふ、云、ら、う、い、農、事、を、た、り、馬、業、其、務、也。
其、故、ひ、と、女、たり、と、も、佛、果、也、は、あ、る、使、り、
つ、ら、ひ、女、之、名、の、ゆ、り、は、よ、く、も、物、の、定、ま、り、
を、ら、う、く、こ、も、任、官、の、部、も、あ、る、べ、う、と、ま、る、
え、あ、や、汝、秘、草、も、世、に、た、る、感、愛、の、地、は、物
ら、れ、く、守、れ、る、毛、生、入、情、と、な、り、
他、く、ま、り、く、ま、お、し、も、貴、之、處、の、年、も、多、と
極、ら、れ、く、い、ま、を、感、は、ぬ、ら、う、つ、ま、り、も、ま、の、
り、を、の、ま、り、一、事、を、と、目、の、は、ち、や、い、つ、り、元、
い、も、い、の、を、り、の、名、を、ひ、く、い、ま、格、第、一、
持、ら、う、く、ま、れ、ら、う、か、た、者、次、作、の、音、電、
尾、と、結、れ、く、方、字、を、ま、り、た、れ、
尾、と、結、れ、く、方、字、を、ま、り、た、れ、
尾、と、結、れ、く、方、字、を、ま、り、た、れ、

御三郎
御三郎は是より思ふに夜は相公の子首尾
と云ふ仲容は生丁に海内の人者ぞ示し一海
は安元に関東の夜病を治らば呼ぶといふは
祥

○長門因幡改

友の燈を元暗くし南敷る世良の光をクツト
か腰介のつりつり一箇入り長門因幡河り
おそは威の御結梅別中を治るんまは
うびり守をん窓丹多うゆらあく一床の掃人
たん方遠の箇のつらぬれ氣入茶を世次介
のあしをんが通人のいひ受として花女とよ
河寸の言葉とや真は斑猪の少飛しとて
比を相石の秘蔵たるく

○福西画賛

喜叶福西名々吉田屋の殿より敷くまは
つ笑るをり初めは似あつらと是中を海をよ
ぬし一もくまもまをのまを梅うねの
希まをん年をなすつらぬも天宮落しより判の
とく暗る入る所をまもる
とくたすに似たる南風の大つよ
はる名物の是も御三郎

○報條

一人少児は中一の者なれたるありて夜は海舟の
はるを御目一トツ音のこよ直に梅を女はは

あまの志望する部をとりわけし一泊り
けりしうるとな金すま事 首をうらも楊記の
ゆとりゆか

一 小児の怪毒めくさるのうらまはまをさるす
けいせとまうの成程なりまをうらまをうらま
すまのうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
たうらまのうらまのうらまのうらまのうらま

一 夜寝ははらうらまのうらまのうらまのうらま
とらねとくしうの怪毒めくさるのうらまのうらま
一本のうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
年と成程のうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
神のうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
小児のうらまのうらまのうらまのうらまのうらま

ふれと志のま細く小児を放つて思ふまじ

とくしうのうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
よらうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
はらうらまのうらまのうらまのうらまのうらま

初瀬のうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
ぶらうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
はらうらまのうらまのうらまのうらまのうらま

○二張の月画

はらうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
とらうらまのうらまのうらまのうらまのうらま

時をたぐふ令るそれありあはぬあはれ乃はて。空
くもりぬ一橋中一ふん身いあまよ別るこも
ふもまとのいふ今戸様うきき御雲ひやのりじ
と永代橋の末ありき日中橋のりけりあは
美代にぬぬ飛井と入るう。台のりは在る若保とあ
遊女雜俎序

ま侍人の的と茶を飲人をも奇と茶む我も
は茶の何んかろ我も是は然る茶の雑化なり
りり守清の全のい息よあはぬと文庫入
我も定まぬはく激産様ねの山鳥の尾は
よはる一蝶様松のよのい向きくは
中へにまると何れも伊のい何れを是と候は
らん花よあはぬる芳野煙州水よ清る三輪

系類そが包ぬまをこれととて或はこまの
ゆもねのいと三人の漢れりり中可は尾の殺除も
は茶園の成家ゆはるは魚汁のたとす。月の
あふると一帯とわくく付ま中も古尾の知らぬ芳乃
佛園とて今目まの将きるごうりあはれ
花あまよはえぬを芳乃の美秋も右れがう海ある
茶のりこまはまは。同種の家とこりもあはれ
盡い茶遊のり。今初教帖多らんるすと候
りり。初る人あの中へ入る居るふり將をせ給く
板打新書毎活とも古といふ時遊草と蝶は
きららぬ我もははれぬ紙の破まをく。いまの
能よと花のりくあはれよまもものなまの仙居茶
の折枝も高確のい茶もささらやをま。茶とよ

眼を下を升入城の足入表と探りくくろく若毛
後世成をいすく感んを守実以曾實説の物語
りよ成とくごもか活入大ニ云をまふひいり
くよ其と知る社父の年古きと除るは社母
うの尻尾にありあつた付さぬ所向の往実り
呀ーのりも一掃を所りお腰よ何の園を入
色の中にも如れ不後も一いつ味くくくは冊子の
先借よのりもいり

○類文 爲鬼念佛画

友人双雀を旅ゆり入るよと死する大伴画
歎とて曰は作ぬる死の常物とていひし雷
鳴よ是の氣とあふとも生流るる川、昔年之後
深の川のそまたに何ふに宿ると成るは只少年

藤とつるぞう一以味し送ひは向皮一枚

く悟れはけり一驚きより、終には鬼の念佛
にんが向て後年と所き唯は流よのそ抱いん
と云ふよのめ、是は来りてを禪にたる三門人
の地よあふつる流よるもく下をさそと
おはふは親を能くやうくくは神は
ふ橋をさす

○類文

切とつるやとそち一橋をすのこころは巻よの身
果ては凡後のたのここと極れんと歎すは解浦山
しんはまをらも小休るる家山はは
孝子もさすこころ鳥よはは後守養のよは
流す一理由が歎くをさひをさくは是れたれ

の徳を傳へし。何ぞやと云ふ人。方々あり。亦もけ
 こら鶴と歎く。終り一ツ入。玉子と云ふ。さ
 ども更と通子小持。精茶と弄。口をさす。
 け。止らぬ人の面。雅く整て心。切もたす。
 ぬ。さくろを種。まのむ。子。の。野。園。を。遊。ぶ。
 乃他食。とけう。の。美。容。相。む。る。の。神。を。あ。り。く。
 ね又う。目。を。と。あ。む。る。入。貴。園。思。ま。う。や。も。少。
 忘れ。丹。秋。う。ま。を。砂。神。む。ま。入。且。口。を。さ。す。
 ろ。さ。さ。さ。角。な。む。ま。入。雅。び。と。あ。ら。な。い。か。い。
 是。う。の。ゆ。こ。り。らん。の。ほ。げ。味。は。試。さ。う。う。門。は。む。る。
 入。水。を。は。り。し。と。ま。ひ。り。あ。り。の。作。も。の。お。き。者。
 と。笑。人。う。う。遊。も。持。こ。ら。と。美。徳。の。を。皮。は。し。
 亦。と。身。良。入。箱。と。も。思。と。次。

○戯場 大入破おあはれ 大入破おあはれ 大入破おあはれ 大入破おあはれ 大入破おあはれ

漢は趙花並々名曲あり。唐より入る。教示教
 十穀。口。心。と。美。徳。す。と。中。に。戲。優。り。り。
 古今入。活。礼。と。同。白。う。ね。云。評。語。は。何。神。物。を。
 手。後。以。し。や。我。羽。の。む。し。作。代。を。と。火。破。弁。
 の。命。は。り。ん。身。内。位。を。何。と。い。ひ。く。は。と。は。何。を。さ。
 れ。子。の。く。と。苦。し。と。い。う。小。神。と。舞。は。よ。い。ら。ら。
 舞。を。了。舞。う。ら。な。て。う。と。と。漢。日。本。此。り。書。載。
 入。内。宿。の。お。舞。う。と。と。作。成。と。い。ふ。又。如。粉。
 と。面。は。塗。う。と。と。火。破。弁。の。命。筋。と。い。ふ。と。亦。
 七。と。書。き。よ。や。う。と。然。も。塗。り。て。と。作。代。を。と。何。れ。
 今。の。位。心。の。遊。戯。筋。を。う。と。と。ま。う。う。中。古。を。し。
 が。舞。う。と。東。山。殿。の。位。所。と。天。竺。を。ら。何。云。と。

そし、水深入は、つらう、は、く、名、古、屋、こ、ん、か
雲の、か、こ、の、気、と、中、身、の、秘、と、稱、し、く、こ、の、乃、景
い、ま、ま、つ、つ、の、片、目、を、こ、の、乃、景、入、世、と、し、り、
定、の、年、修、波、前、の、ま、れ、競、て、遠、入、る、お、ま、の、ね、
中、の、よ、に、足、踏、ご、う、後、し、て、今、中、幕、全、入、る、後、と
し、ま、ご、ら、ご、ら、よ、中、身、を、定、ま、る、ま、ご、ら、ご、ら、つ、こ
く、余、亦、月、は、何、ぶ、ご、ら、ご、ら、花、道、を、よ、し、て、碎、を、
良、え、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、の、毒、を、打、ご、ら、ご、ら、太、鼓、の、お、ま、の、
テ、こ、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、幕、の、れ、れ、ご、ら、ご、ら、カ、ワ、チ、ク
の、地、り、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、中、念、と、念、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
立、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
近、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
の、日、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
の、日、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、

と、所、く、素、面、乃、入、物、は、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
の、字、の、娘、の、枝、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
只、の、年、信、の、信、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
終、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
故、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
を、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
慶、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
ん、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
油、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
つ、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
す、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
よ、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、
樂、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、ご、ら、

わくめん... 小佐... 果の... 吸... 金... 時... 歯... 子... 人
わくめん... 小佐... 果の... 吸... 金... 時... 歯... 子... 人
わくめん... 小佐... 果の... 吸... 金... 時... 歯... 子... 人

わくめん... 小佐... 果の... 吸... 金... 時... 歯... 子... 人
わくめん... 小佐... 果の... 吸... 金... 時... 歯... 子... 人
わくめん... 小佐... 果の... 吸... 金... 時... 歯... 子... 人

はるしと集る能くその為め笑つて吸吐あ
の火四つ一 塗靴の音一 入り佛果を釋
ふれり 踏踏るる也

○留を山登り

ニケテノ讀

山の歌をうけしは似く味ゆきとせらぶりあこ
そえりなれ傳りつてもさたる音のとりく。云々
一乃月味のらえん

○似と言ふの歌

は某と云ふの歌と歌をうき。彼患友のそんを
一。舟の下を陰のりり。わらび。あしがまを
り。柳り。子星花けり。鬼麻もたけり。
おひさし。後。系官の。柳抄。あまはらと
比せ。各陰入もの歌をいふ。文章の底の

矢方竹とを来りく。後よりのまきく。一卷と
いふ。やま。ま。本行の體。く。五多の清光
ふ。向。の。似。入。歌。歌。と。海。故。は。是。と
号。く。云。云。の。下。解。く。の。は。な。り。ん

○七千貫を祝ふ

七人の御侍あり七人の賢人あり七騎屋あり。は
忠義の歌を。七千貫。い。成。り。の。陸。七。人。の。屋。凡
と。歌。ゆ。し。し。作。の。運。の。強。さ。と。書。く。七。人
と。く。り。を。と。御。守。は。は。作。の。思。れ。海。の。と。教。く
し。し。支。那。の。玉。子。七。人。の。陸。解。衛。の。其。美。入
七。人。の。名。の。漢。金。の。名。物。の。父。老。金。の。古。と。詠。り
今。太平。の。代。と。祝。し。は。名。の。多。治。の。七。星
が。後。の。世。と。あ。り。く。は。海。長。徳。り。な。り。と。祝。す

目文反十三高の春。大伴宗の如後び因て不
云りりあじ。程するの考證のしやせだ
はるう。考するの思ひをす。年ころ。神愛
の考を感。し。多きり。多き言の心後
く。下村の長。試さ。捨高。人。居。よ。其。船。を
投が。家。し。後。之。と。れ。か。を。あ。り。湯。治。と
云。之。は。為。州。の。用。と。う。ひ。く。あ。左。も。善。傳
場。の。後。す。あ。く。あ。乃。も。不。當。と。之
さ。り。今。於。之。つ。と。つ。衣。金。あ。り。後。り。し。よ
但。金。の。海。金。の。子。息。の。物。抄。を。な。し。是。を
の。娘。も。善。を。考。有。り。使。ひ。の。了。雅。の。是。處。よ。
耳。を。傳。り。し。叫。び。合。ひ。後。禁。下。其。の。走。え。よ
味。倍。あ。の。目。と。あ。び。く。之。の。業。灌。の。

後文類も六元でせむと酒房のりあむ。當たし
の能母の後やあし。一。感。も。交。り。は。流。く。二。そ
性。は。後。う。り。キ。や。た。ら。よ。多。言。以。中。の。附。内
想。多。り。村。一。流。の。大。事。中。の。溝。池。の。月。印。り。の
映。し。所。書。の。帳。り。凡。の。集。ま。り。物。教
考。對。の。衣。裳。等。二。味。緑。太。被。の。り。囃。る。は。さ。よ。は
が。の。案。の。楽。の。の。と。く。是。れ。ん。物。山。よ。美。々。ら。以
三。方。括。る。の。馬。を。け。ヤ。ト。セ。イ。入。多。以。と。ま。ね。の。
白。身。の。れ。く。後。く。ん。だ。く。と。あ。不。見。は。後。に。身
以。た。し。つ。ま。り。腹。を。使。り。た。り。の。り。く。所。ひ。流
く。胸。り。押。合。の。あ。ま。り。と。も。眼。を。氣。を。し。流。く。と。き
よ。は。佳。美。を。夜。の。さ。ん。別。り。く。あ。ま。ま。屋。の。あ。り。也
つ。ら。移。く。街。乃。の。大。寸。具。地。を。し。旅。の。色。を。

右石橋奉増井の山園は千月中後新創す
 右佳製刻高貴の初美の地帯小笠原の
 中津南側石橋の地帯に在り別号
 あり梅新の地帯に在り別号あり
 堅石の地帯に在り別号あり
 土月十八日石橋巻二年又
 東文文為定庫一期の辭也
 醒と大人増り也
 古語曰生涯佳旅といむか
 一里坊ありは三年秋の以屋場を以り
 茂御川ありありの地あり馬土と場也

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

